連雀学園三鷹市立第四小学校
教諭　中本　隼介

プレ授業　１年生

【本時のねらい】

思考・判断

友達のよい動きを見付けることができるようにする。(3/4)

【 本時の展開 】

成果○　課題△　改善案

△学習の流れを確認する。

上手な友達を見付けよう！

準備運動をする。

○～うご☆たの島へ Let's Go!～

「探検に行こう」

おすもうさん→ジャンプの国→忍者

用具操作にすながるところはよい。

○力試しの運動遊びに取り組む。

『糸まきまき』

→ひっぱりずもう→おしくらまんじゅう

→わにじゃんけん

よい動きを取り上げる時間をしっかりととることが必要である。

○短なわを操作する運動遊びに取り組む。

○やってみる

△よい動きを共有する

○もう一度やってみる

△３０秒間チャレンジ

片付け・整理運動・振り返り

※言葉掛けについて

①動きのこつを引き出すような言葉掛け

②今日のねらいに沿った動きを肯定する言葉掛け

③繰り返しめあてを意識させる言葉掛け

④動きの工夫を肯定する言葉掛け

⑤遠くの子にも聞こえるように肯定する言葉掛け

・単元を通して、上記の５つを前提に授業を組み立てていく必要がある。

・「上手」とは何か？「何ができれば」今日はよいのか？など、「ねらい」を繰り返し児童に伝えていくことが指導者のねらっている動きの発見につながる。

児童のよかった姿を３観点からたくさん紹介したため、本時で児童が何ができればよいのかが、児童に伝わっていなかった。

本時のめあてにつながるものを精選し、紹介する。１観点につき１つか、思考判断のもの１つにする。

一つひとつの動きの間の教師の言葉掛けにためが、長すぎで、児童のもっとやってみたいという気持ちを止めてしまっていた。

タイミングを精選し、次はどんなものが来るのかわくわくさせるように言葉掛けを行っていく。

自然発生的なペア学習にしたことで、いつも同じ友達だけでなく、違う友達ともやってみる様子が見られた。

１年生の発達段階として、その場の状況で、いろいろな友達とやってみることが、「いつでも、どこでも、だれとでも」につながると考えた。

なわの展開を以下のようにするのはどうか。

・やってみる「自由に跳ぶ時間」（１人で）

・よい動きを共有する

「１人でやった動きが２人でもできるかな？」

・もう一度やってみる「自由に跳ぶ時間」（友達と）

・よい動きを共有する

・３０秒チャレンジタイム